

第4次厚真町総合計画 実施計画シート

事業名	ふるさと厚真会交流事業	担当課	担当グループ	作成者(職・氏名)
		1 総務課	11 総務人事グループ	主任・日野 弥生

実施計画年度(期間)
R 5 年度 (R5 ~ R7)

事業評価対象年度
R 4 年度

1 基本事項

事業区分	事業開始年度	平成 28 年度	事業主体	会計区分	予算科目					
	事業終了年度	令和 7 年度			1 町	1 一般	02 01 01	0322	001	25
事業の性質	法令に基づかない自主的事業				条例等の有無	無				
根拠法令・例規計画等										
総合計画	基本目標	5	みんなで支えるあつま							
	基本施策	19	住民自治の推進							
	施策項目	191	地域活動の活性化							
	復旧・復興計画	99	その他							
	総合戦略	99	その他							
政策展開方針 (R2~R6)	厚真町強靱化計画	9999	その他							
	大項目	9	その他							
	中項目	9	その他							
施策項目	9999	その他								

2 事業概要 (Plan)

事業の目的	都市圏との相互交流による地域活性化や団体会員の郷土愛の醸成を図る。
事業の内容 (手段・方法等)	ふるさと厚真会3団体への運営補助金の交付、総会への出席、あつま田舎まつり参加に対する受入対応
対象	東京厚真会、苫小牧厚真会、さっぽろ厚真会
成果目標	ふるさと厚真会に対する活動支援等を通して、都市圏との地域間交流の促進及び郷土愛の醸成を図り、各厚真会の活動を維持する。

3 実施結果 (Do)

① 事業費

単位：千円

事業費の推移	H28 (前期1)	H29 (前期2)	H30 (前期3)	R1 (前期4)	R2 (前期5)	R3 (後期1)	R4 (後期2)	R5 (後期3)	R6 (後期4)	R7 (後期5)
	決算・決算見込み・予算・計画	決算・決算見込み・予算・計画	決算・決算見込み・予算・計画	決算・決算見込み・予算・計画	決算・決算見込み・予算・計画	決算・決算見込み・予算・計画	決算・決算見込み・予算・計画	決算・決算見込み・予算・計画	決算・決算見込み・予算・計画	決算・決算見込み・予算・計画
事業費	424	348	348	398	210	101	325	385		
特定財源	国支出金	0	0	0	0	0	0	0		
	道支出金	0	0	0	0	0	0	0		
	町債	0	0	0	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0	0	0	0		
一般財源	424	348	348	398	210	101	325	385		
人件費 (@4,000*時間数)	345	345	345	345	345	345	345	345		
積算根拠							東京厚真会補助金 70 さっぽろ厚真会補助金 70 苫小牧厚真会補助金 70 田舎まつり差し入れ 101 札幌厚真会総会旅費 2 苫小牧厚真会出席バス代 (未開催のため) 0 さっぽろ厚真会出席レンタカー代 12	東京厚真会補助金 70 さっぽろ厚真会補助金 70 苫小牧厚真会補助金 70 田舎まつり差し入れ 120 札幌厚真会総会旅費 3 苫小牧厚真会出席バス代 52		
主な年次計画 (取組)	/									
ヒアリング 指示事項 ※企画調整G記入欄	/									

② 実績・成果

指標名称(前期)		H28(前期1)		H29(前期2)		H30(前期3)		R1(前期4)		R2(前期5)		R3(後期1)		R4(後期2)		R5(後期3)		R6(後期4)		R7(後期5)		
		数量	単位	数量	単位	数量	単位	数量	単位	数量	単位	数量	単位	数量	単位	数量	単位	数量	単位	数量	単位	
主な活動指標	目標	3	回	3	回	3	回	3	回	3	回	3	回	3	回	3	回	3	回	3	回	
	実績	3	回	3	回	2	回	2	回	0	回	0	回	1	回	2	回		回		回	
	達成度	100	%	100	%	66.7	%	66.7	%	0	%	0	%	33.3	%	66.7	%	—	%	—	%	
※数値化できない活動内容や指標の変更等について記載する																						
主な成果指標	目標	530	人	530	人	530	人	530	人	530	人	390	人	350	人	350	人	350	人	350	人	
	実績	438	人	408	人	408	人	388	人	386	人	366	人	345	人		人		人		人	
	達成度	82.6	%	77.0	%	77.0	%	73.2	%	72.8	%	93.8	%	98.6	%	—	%	—	%	—	%	
※数値化できない活動内容や指標の変更等について記載する																						
		・苫小牧 145人 ・室蘭 46人 ・さっぽろ 112人 ・東京 135人			・苫小牧 166人 ・さっぽろ 107人 ・東京 135人			・苫小牧 166人 ・さっぽろ 107人 ・東京 135人			・苫小牧 158人 ・さっぽろ 95人 ・東京 135人			・苫小牧 158人 ・さっぽろ 93人 ・東京 135人			・苫小牧 143人 ・さっぽろ 88人 ・東京 135人			・苫小牧 130人 ・さっぽろ 80人 ・東京 135人		

4 事業の評価(Check)

評価項目	評価の視点	評価結果	説明
妥当性	実施主体・目的・対象・手段等は公平かつ妥当か?	A	各厚真会の運営経費の一部に対し補助を行うことは、安定した活動、会員同士の連携・交流及び愛郷精神の向上、都市部との地域間交流に資する取り組みであり、妥当である。
有効性	期待された成果が得られたか?	A	毎年の田舎まつりへの参加、総会及び懇親会が実施されており、会員は減少傾向にあるが、各厚真会活動の継続という成果が得られている。
効率性	コスト面からみた費用対効果は適正か?	A	各厚真会に対する定額70,000円の補助は、交流活動の維持のために活用されており、費用対効果は適正である。

※評価結果は、A：妥当である B：概ね妥当である C：あまり妥当でない D：妥当でない で評価する

5 今後の方向性・課題・改善提案等(Action)

予算	継続(現状維持)	サービス	継続(現状維持)	方向性	現状維持
理由	各厚真会の活動及び地域間交流維持のため、運営経費に対する補助を継続するとともに、毎年の田舎まつりにおける受入対応、総会及び懇親会への出席を継続していく必要がある。				
課題および改善提案	各厚真会においては、会員の減少・高齢化が進んでおり、役員等の担い手不足が課題となっている。会員確保へ向けては、会員間の情報交換やネットワーク強化を図るとともに、町のイベントや事業等の情報の積極的な発信・提供に努め、若い世代の加入を促進することが必要である。また、ふるさと納税による繋がりも有用であると考え、積極的なPRに努めていきたい。				

※予算・サービスは「継続(拡大・現状維持・縮小)」および「終了」から、方向性は「拡大」「現状維持」「縮小」「終了」から選択する。

6 内部評価(本欄は、内部評価委員会で使用するため事業担当課は入力しないでください。)

予算	継続(現状維持)	サービス	継続(現状維持)	方向性	現状維持	意見
						都市圏の厚真会との交流により地域活性化に加え、関係人口拡大にも資することから、現状維持による事業継続が妥当である。「ふるさと厚真会」の概要や問合せ先等について転出者に紹介したり、ホームページで情報を発信する等、会員数維持に向けた取組について検討することが望ましい。

7 外部評価(本欄は、外部評価委員会で使用するため事業担当課は入力しないでください。)

評価実施年月日	R 5年 11月 20日	予算	継続(現状維持)	サービス	継続(現状維持)	方向性	現状維持
付帯意見(全体意見)	〇都市圏の厚真会との交流により、地域活性化に資する事業である。						
その他意見(個別意見)	〇補助金額が定額70,000円であることの根拠を精査のうえ、必要に応じて、適正な補助金額について検討すること。						

8 外部評価に対する町の考え方

回答年月日	R 6年 2月 29日
〇各厚真会との交流は、地域活性化の一手を担う必要不可欠なものです。今後も運営経費の補助や田舎まつりの受入対応、総会への出席などの交流を継続します。 〇運営補助金については、現行の補助金額になった経緯を精査し、各厚真会の活動に合った補助をしていけるよう検討してまいります。	